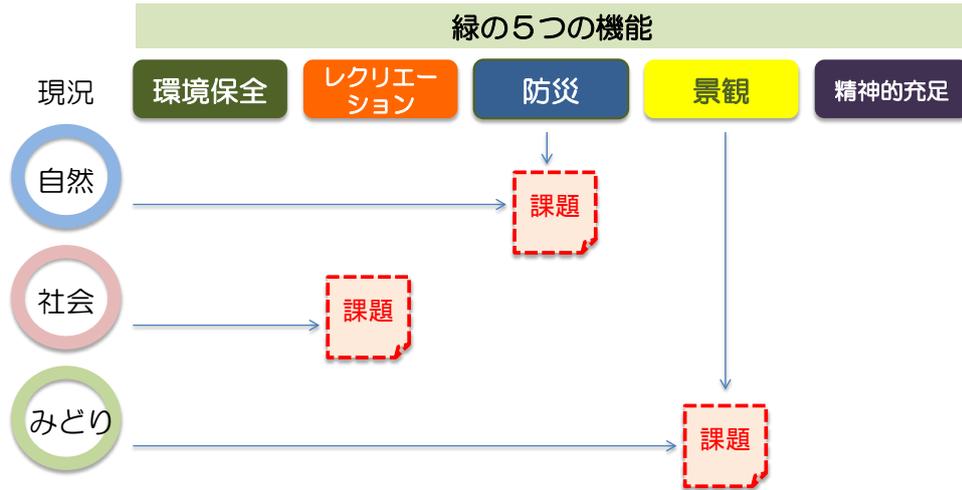


2 みどりの現況と課題

2-1) 現況と課題

旭川市のみどりにかかる現況と課題について、自然、社会、みどりの3つの面と「みどりの持つ5つ機能」から整理すると次のとおりとなります。

■ 現況と課題の整理



① 「自然」からみた課題の整理

旭川市の「自然」では、寒冷積雪の気候や多様な自然、河川や田園などのみどりの骨格、河川が多いなどの現況に対し、これらの良さが失われることへの懸念や、災害など安全面での課題がみられます。また近年、ヒートアイランド化の傾向が顕著となっています。

■ 「自然」からみた課題

* (環①) 等の表記は、2-4の一覧表の通し番号を参照。

	現況	みどりの5つの機能からみた課題	
自然	夏暑く冬寒い、四季の変化が明瞭、寒冷積雪の気候風土	冬期の過ごし方への工夫の余地がある(環①)	冬期の防災対策が不十分(防①)
	亜高山帯～低山地帯の多様な自然植生	多様性の減少の危惧(環①)	旭川らしい自然景観の劣化が懸念(景②)
	街、河川、田園、山地丘陵の緑を骨格とする構成	骨格となる緑地資源の減少懸念(環②)	斜面崩壊や土砂流出などの災害発生の危険性(防②)
	大雪山系を源とする多くの河川が市内に貫入	河川環境、生物移動空間の劣化懸念(環③)	自然豊かな旭川を象徴する景観資源としての活用余地がある(景④)
	貴重な鳥類、希少植物など生息生育環境を有する	動植物の生息生育環境の喪失・攪乱懸念(環④)	多様な自然とふれあう機会が限定的(精②)
	ヒートアイランド化の傾向	ヒートアイランド化進展の懸念(環⑤)	

< 凡例 > 今回、新たに上げた項目
H7→H26で変化した項目

② 「社会」からみた課題の整理

旭川市の「社会」では、この20年で大きな変化がみられました。具体的には、

- ・人口減少と少子高齢化が進展
- ・中心市街地の活力低下、開発圧力の低下
- ・財源予算の縮減
- ・町内会加入率低下などコミュニティ面での衰退
- ・市民活動の活発化

などが挙げられます。こうした側面から公園の利用減少やニーズの変化、施設の老朽化、バリアフリー化などの高齢化対策が求められているほか、みどりの市民活動の展開への期待もみられます。

■ 「社会」面からみた課題

		現況	みどりの5つの機能からみた課題	
社会	人口減少が進展（20年後には6万減の28万規模へ）	全国的には公園利用者の減少（レ④）	高齢者の憩いへの希求の増加、公園遊具の利用低下（精③）	
	少子高齢化が進展（老年人口は約40%、年少人口は10%未満へ）	公園施設へのニーズが多様化、バリアフリー化の立ち後れ（レ⑤）	避難経路のバリアフリー化が不十分（防⑤）	
	中心市街地の空洞化が進展	都心のにぎわいや快適性の低下（レ⑥）	都心部の景観的なシンボルとなる緑が弱い（景⑤）	
	開発圧力、市街地拡大が低下	既成市街地内の樹林地帯が希少化（環⑦）	規模の小さい公園の増大、公園施設のマンネリ化（レ⑦）	
	財源、予算の縮減傾向	公園施設の老朽化、維持管理負担の増大（レ⑧）		
	町内会加入率の低下	地域コミュニティの衰退、地域清掃や公園維持管理に担い手不足（レ⑨）	地域コミュニティの交流活動が停滞気味（精⑤）	
	市民活動が活発化	環境に関わる市民活動やNPO団体が増加も、協働体制が不十分（環⑧）（レ⑩）	市民の楽しみ増進のための普及啓発が不十分（精⑥）	

<凡例> 今回、新たに取り上げた項目
H7→H26で変化した項目

③ 「みどり」からみた課題の整理

旭川市の「みどり」でも、この20年の変化が顕著です。具体的には、

- ・公園施設の着実な増加
- ・狭小の公園・児童遊園の増加
- ・公園が未整備の地区の未解消、公共施設の緑化の立ち遅れ
- ・河川を軸とする生物多様性への対処
- ・田園を中心とする農や食への関心の高まり
- ・市民協働の多様化
- ・市民評価は上昇傾向であるものの、施設評価がやや低い

などの状況から、新たな課題への対応が求められています。特に公園施設の老朽化

や狭小な児童公園への対処，田園文化的なニーズへの対応，市民協働の連携，市民の公園施設の評価や満足度への対応などが求められています。

■ 「みどり」からみた課題

		現況	みどりの5つの機能からみた課題		
みどり	全体	河川，丘陵地，田園の緑に依存した構造を有している	街の緑が弱く，河川，丘陵地，田園の保全と活用が不十分 (環⑨) (レ①) (防③) (景⑥) (精⑦)		
	街の緑	一人当たりの都市公園面積は着実に増加	維持管理負担の増大，施設内容が重複，量より質への希求 (レ⑪)	樹木の老木化 (景⑦)	
		20年以上経過した公園が8割，狭小な公園(1000㎡未満)が1/4を占める	規模が小さく同様な遊具で機能重複 (レ⑫)	遊具の安全管理負担が増加 (防⑩)	
		狭小な多数の児童遊園がある(280箇所)	住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で不十分 (レ⑬)	画一的な整備から地域ニーズへの対応へ (精⑨)	
		公園緑地の整備が未充足の地区がある	危険木の発生，維持管理負担の増大 (レ⑭)	補植更新時に市民理解が得られないケースが増加 (精⑩)	
		街路樹の推移は横ばい	施設と一体となった取組みや先導的役割が限定的 (レ⑮) (防⑬) (景⑨)	緑を介した情操，環境教育の充実が弱い (精⑪)	
		小中学校，行政施設，幼稚園などの公共公益施設の緑化が立ち遅れている	民有地緑化修景の誘導取組みが有効に展開されていない (環⑫) (レ⑯) (防⑭) (景⑩) (精⑫)		
		商業地や民有地は緑化状況は全体的に低い	効果的な緑化推進や保全が不十分 (環⑬) (レ⑰) (防⑮) (景⑪) (精⑬)		
		緑豊かな印象は，丘陵地周辺など高いが市内全体でみると希薄	緑地などの整備による都市景観の向上が不十分 (景⑫)	身近な潤い空間を拡充に欠ける (精⑭)	
	公園緑地の整備は，古くからの市街地が高密度で公園緑地などが少ない	河川植生の多様性確保，広域ネットワークづくりが断片的 (環⑯)	母なる河川景観の保全，創造が不十分 (景⑬) (精⑮)		
	河川	市街地に4つ河川が流れる川の街，河川に接続する公園が多い	農地の減少と耕作放棄地の発生 (環⑰)	耕作放棄地や不法投棄による景観劣化 (景⑭)	
	田園の緑	豊かな農地の減少，後継者不足	ガーデニングや市民農園，地産地消などの動向に回答が限定的 (レ⑳)	生きがいづくり，交流促進による愛着のもてるまちづくりへの仕掛けが限定的 (精⑯)	
	全体	食への安全志向，市民農園等の農の生活文化の高まり	自然環境保全の活性化，担い手育成の遅れ (環⑱) (レ㉑)	都市景観の向上に向けた市民協働機会が限定的 (景⑮)	
		市民協働の定着，多様な市民活動の展開	市民評価は上昇傾向も6割程度 (環⑲)	「悪い」が減少傾向も「良い」が横ばいと評価が低い (レ㉒)	
全体	市民評価は自然環境に対して高く，公園，遊び場に対してやや低い				

< 凡例 >

今回，新たに取り上げた項目

H7→H26で変化した項目

■現況と課題一覧

	現況	環境保全面の課題	レクリエーション面の課題	防災面の課題	景観面の課題	精神的充足面の課題
自然	夏暑く冬寒い、四季の変化が明確、寒冷積雪の気候風土		冬期の過ごし方への工夫の余地がある(レ①)	冬期の防災対策が不十分(防①)	季節変化の魅力づけが不十分(景①)	
	亜高山帯～低山地帯の多様な自然権生	多様性の減少の危機(環①)	多様性の享受が限定的(レ②)		旭川らしい自然景観の劣化が懸念(景②)	ふるさとの風景として保全方策が弱い(精①)
	街、河川、田圃、山地丘陵の線を骨格とする構成	骨格となる緑地資源の減少懸念(環②)		斜面崩壊や土砂流出などの災害発生危険性(防②)	豊かな緑に囲まれた景観特性の担保性が低い(景③)	
	大雪山系を源とする多くの河川が市内に貫入	河川環境、生物移動空間の劣化懸念(環③)	自然に親しむレクリエーション活動の場としての工夫の余地がある(レ③)	避難経路としての接続性が不十分(防③)	自然豊かな旭川を象徴する景観資源としての活用余地がある(景④)	多様な自然とふれあう機会が限定的(精②)
	貴重な鳥類、希少植物など生態生育環境を有する	動植物の生態生育環境の喪失・攪乱懸念(環④)				
	ヒートアイランド化の傾向	ヒートアイランド化進展の懸念(環⑤)				
社会	人口減少が進展(20年後には7万減の27万規模へ)		全国的には公園利用者の減少(レ④)	安全安心への希求増大(防④)		高齢者の憩いへの希求の増加、公園遊具の利用低下(精③)
	少子高齢化が進展(老年人口は40%超え、年少人口は10%未満へ)	自然環境を享受するニーズが多様化(環⑥)	公園施設へのニーズが多様化、バリアフリー化の立ち遅れ(レ⑤)	避難経路のバリアフリー化が不十分(防⑤)		
	中心市街地の空洞化が進展		都心のにぎわいや快適性の低下(レ⑥)		都心部の景観的なシンボルとなる緑が弱い(景⑤)	都心の潤い魅力の低下(精④)
	開発圧力、市街地拡大が低下	既成市街地内の樹林地が稀少化(環⑦)	規模の小さい公園の増大、公園施設のマンネリ化(レ⑦)			
	財源、予算の縮減傾向		公園施設の老朽化、維持管理負担の増大(レ⑧)			
	町内会加入率の低下		地域コミュニティの衰退、地域清掃や公園維持管理に担い手不足(レ⑨)	要援護者への防災支援が不十分(防⑥)		地域コミュニティの交流活動が停滞気味(精⑤)
市民活動が活発化	環境に関わる市民活動やnpo団体が増加も、協働体制が不十分(環⑩)(レ⑩)		防災面で地域協働システムが不十分(防⑦)		市民の楽しみ増進のための普及啓発が不十分(精⑥)	
みどりの街の緑	河川、丘陵地、田圃の線に依存した構造を有している	街の緑が弱く、河川、丘陵地、田圃の保全と活用が不十分(環⑪)(レ⑪)(防⑪)(景⑪)(精⑦)				
	一人当たりの都市公園面積は着実に増加		維持管理負担の増大、施設内容が重複、量より質への希求(レ⑫)	防犯防災機能の充実が一部、不十分(防⑧)	樹木の老木化(景⑫)	バリアフリー化の対応が立ち遅れ(精⑧)
	20年以上経過した公園が8割、狭小な公園(1000㎡未満)が1/4を占める		規模が小さく同様な遊具で機能重複(レ⑬)	遊具の安全管理負担が増加(防⑨)		
	狭小な多数の児童遊園地がある(230箇所)		住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で不十分(レ⑭)	広域、一次避難地の機能強化が不十分(防⑩)		画一的な整備から地域ニーズへの対応へ(精⑨)
	公園緑地の整備が未充足の地区がある	整備における生物多様性の視点が未整備(環⑫)	危険木の発生、維持管理負担の増大(レ⑮)	避難経路のネットワーク形成が不十分(防⑪)	強弱定による景観劣化(景⑬)	補修更新時に市民理解が得られないケースが増加(精⑩)
	街路側の推移は横ばい	生態回廊的な対応が限定的(環⑬)				
	小中学校、行政施設、幼稚園などの公共施設施設の緑化が立ち遅れている		施設と一体となった取組みや先導的役割が限定的(レ⑯)(防⑫)(景⑭)			緑を介した情操、環境教育の充実が弱い(精⑪)
	商業地や民有地は緑化状況は全体的に低い	民有地緑化修繕の誘導取組みが有効に展開されていない(環⑭)(レ⑰)(防⑬)(景⑮)(精⑫)				
	緑豊かな印象は、丘陵地周辺など高いが市内全体であると希薄	効果的な緑化推進や保全が不十分(環⑮)(レ⑱)(防⑭)(景⑯)(精⑬)				
	公園緑地の整備は、古くからの市街地が高密度で公園緑地などが少ない	地区公園クラスの生態的拠点づくりが不十分(環⑯)	住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で未整備(レ⑲)	身近な避難地の確保が一部で不十分(防⑮)	緑地などの整備による都市景観の向上が不十分(景⑰)	身近な潤い空間を拡充に欠ける(精⑭)
市街地に4つ河川が流れる川の街、河川に接続する公園が多い	河川緑生の多様性確保、広域ネットワークづくりが断片的(環⑰)	河川空間の多様なレクリエーション活用、ネットワークが不十分(レ⑲)	防災面の避難経路、拠点性が弱い(防⑯)		母なる河川景観の保全、創造が不十分(景⑱)(精⑮)	
豊かな農地の減少、後継者不足	農地の減少と耕作放棄地の発生(環⑱)	ガーデニングや市民農園、地産地消などの動向に希求が限定的(レ⑳)		耕作放棄地や不法投棄による景観劣化(景㉑)		
食への安全志向、市民農園等の農の生活文化の高まり					生きがいづくり、交流促進による愛着をもてるまちづくりへの仕掛けが限定的(精⑯)	
市民協働の定着、多様な市民活動の展開	自然環境保全の活性化、担い手育成の遅れ(環㉒)(レ㉒)		防災協働の強化が立ち遅れ(防㉒)		都市景観の向上に向けた市民協働機会が限定的(景㉒)	
市民評価は自然環境に対して高く、公園、遊び場に対してやや低い	市民評価は上昇傾向も6割程度(環㉓)	「悪い」が減少傾向も「良い」が横ばいと評価が低い(レ㉓)			市民の満足度向上に向けた対応が未確立(精㉒)	
<凡例>	今回、新たに取上げた項目	重要な課題				
	H7～H26で変化した項目					